

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_2016_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170200485-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ハートフルは、周りを自然に囲まれた環境にあり、四季折々の草花を楽しむことができ自然を目いっぱい感じることが出来ます。当施設では家庭菜園もっており、四季に応じた野菜や果物を作り育て、自ら収穫し、食事メニューの中に取り入れ皆で調理を行い、季節を感じる献立を取り入れています。併設施設とのご利用者や職員との関係も良く、行事等のときはお互い交流を図り、馴染みの関係を大切にしています。地域のボランティアに月1回、来所していただきお楽しみ会を開催したり、年2回の家族会では日帰り旅行や運動会を開催し、ご利用者とご家族と一緒に楽しめる行事を実施しております。また、年2回、地域交流会を実施し、地域との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、法人の理念に沿う介護を目指して、毎年話し合っ事業所の目標を決め各自の目標を掲げている。管理者は、半年毎に職員の自己評価を基に面接を行い目標の達成度や理念の実践について確認をして助言している。利用者の暮らしが家庭と同じような気分になれるよう、買い物・外出・畑仕事・花づくり等利用者の思いや希望を大切に支援に努めている。また、利用者一人ひとりに担当者を決めて利用者の状態や意向を細かく把握して、その情報を職員間で共有している。介護計画にも反映させて利用者が楽しく暮らせるケアに活かしている。地域交流会の開催や事業所で喫茶を開いたり、行事の都度介護相談コーナーを設けたり、地域行事に利用者と一緒に参加して地域との交流に努め事業所を知ってもらえるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉の原点はサービスである。サービスに徹する。」ハートフルという名前の如く、「努力する心いっぱい」「豊かな心いっぱい」「祈りの心いっぱい」それに感謝する心を持って生かされていることを十分に受け止めて、日々の業務に努める。理念を玄関に提示し、職員意識を持ちながら業務にあたっている。	法人の理念に沿って、毎年事業所の目標を決め、各自の目標を立てている。会議で日々のケアを振り返り理念の実践に繋げている。年2回自己評価を行い、管理者との面接で目標の達成や理念の実践について確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、様々なボランティアの方に訪問を依頼しながら交流を図り、行事の工夫を行っている。また、地域のふれあいセンターやハートフルを利用し、民生委員、自治会長や包括の方々の協力のもと、行事を行っている。	事業所が主体となり法人施設と一緒に年2回地域交流会を開催している。ボランティアの訪問や実習生の受け入れもしている。保育園の誕生会や民生委員宅のいちご狩りに行ったり、地域行事に参加したりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の福祉や看護学生の実習生の受け入れを実施している。近隣地域の小・中・高等学校よりボランティア活動の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月行っている活動や行事等を報告し、ご利用者・ご家族の意見や要望を取り入れていけるような話し合いを行っている。なるべく多くの出席が得られるよう、アンケートを取り、それに基づいて日程を決め開催している。	事業所の行事等に合わせて会議を開催している。会議では、事業所の活動報告や連絡、利用者の紹介を行い感想や意見を聞いている。しかし、地域住民の参加が得られない時があり、地域からの意見を聞くことが少ない。	地域密着型事業所としての理解を深める為にも地域代表を1人と限定せず他の役員にも声掛けする等、参加が得られるようにし、欠席される方への議事録の送付も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回の運営推進会議には、市担当者に毎回出席していただいております。その際に市の情報等もご家族へお伝えしていただいております。	法改正時の提出資料の作成方法や手続き、加算点数の確認等、その都度市に出向いて担当者に相談している。市主催の会議や事例検討会にも積極的に参加して連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内は日中、全扉には施錠しておらず、自由にご利用者に生活していただいております。身体拘束を行うことなく支援していただける方法をその都度話し合い、対応している。	法人主催の身体拘束ゼロ委員会の報告や内部研修から拘束をしないケアを理解して取り組んでいる。利用者が居室の窓から出る時の見守りが困難であったため、センサーをつけて見守り、出た時は一緒に散歩している。近所の方にも見守りをお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内部、外部研修の実施、参加を推進。また、玄関にパンフレット等を置き、相談を受けたときは説明をする。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修にて学んだことを、会議にて発表し、情報共有を行っている。またケアマネや上司が補足にて説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前面接を行い、ご家族、ご利用者の不安や要望を伺うと共に、十分な説明を行い、理解納得を得て、ご家族に同意を得ている。契約時にも、疑問点などがあれば、その都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問を受けており、利用者との談笑の中で気づいたことや感想を帰るときにノートに記入していただいている。	毎年、家族や来訪者にアンケートを行い、家族からは訪問時や電話で意見や要望を聞いている。利用者からは担当職員が日常の会話から意見や要望を聞いている。食事に関する要望は献立に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議において職員の意見を取り入れ話し合いの場を設けている。また、年2回の個人面接時や普段の業務において相談に応じている。	管理者は、職員の意見・要望を、年に一度の改善提案制度の中から抽出したり、年2回の面談時、月1回の全体会議時に聞いている。介護以外の仕事を減らす提案があり、庭の草取り部分を砂利にして対応した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し、各職員の〈やる気〉を引き出す取り組みを行っている。また、年1回改善提案の募集があり、各個人や共同にて提案し、良い案に対しては奨励金制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内部・外部研修の実施、担当職員のOJTなどで育成、指導している。新人職員指導の際には「介護職員スキルアップ表」を使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換をして交流を図っている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、ゆっくり話ができるよう環境を整え、利用者・家族の話を傾聴するように心がけている。併設の居宅サービスを利用されている方は、利用中にグループホーム職員が様子を伺ったり、他職員と情報交換を行い、強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、契約時にも家族等が困っていることに対し、相談にのり助言をしている。それ以外にも相談に来られたり、電話がある時はその都度相談にのり対応している。また入所まで間があるときは、電話等で様子を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のニーズに応じて話を聴きながら、必要時には併設施設の相談員とも連携を図りながら、他施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや畑仕事で収穫した野菜を使った食事作り、週に1度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて共に当たり前の日常を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時と年4回一筆箋にて、利用者の日常生活をお知らせしている。また、年2回運動会や日帰り旅行など皆で一緒に過ごせる時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していたショートスティやデイサービス利用者との馴染みの関係を継続している。自由に行き来し、開放的な雰囲気である。また家族との面会、外出も推進している。	入居後も職員が情報を収集し、その情報を共有して家族の協力を得ながら、行きたい場所や会いたい人と会えるよう支援している。併設施設に通う人との面会や友人に年賀状を出す支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされる方も時折職員が声を掛けてリビングへお誘いし、他利用者と一緒に過ごせるよう働きかけている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(契約)終了の際は「お近くへみえたら、又お立ち寄りください。」「困ったこと等ありましたら、いつも相談ください。」と気軽に来所できるよう声をかけ配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまで、入所後も家族の面会時や電話連絡を行い、思いや希望を把握するよう努めている。また日々の会話の中からニーズを引き出せるよう努めている。	担当職員が日々の会話や所作の中から思いや意向を把握して介護記録に記入し、職員間で共有している。リズムを取る様子をから民謡を教えていたことを知り、併設施設の民謡の会に参加したり発表会に行くなど思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に事前面接時、本人や家族から生活歴や趣味嗜好などをしっかり把握し記録している。それを元に入所後も本人や家族に話を聴き、さらに理解を深めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を記録に残し、月1回のモニタリング時でケアマネを交え話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で本人の想いや希望を聴き、担当者・家族・ケアマネジャー・医師・看護職員とも相談しながら、本人の意見を反映できるよう個別に検討し介護計画の作成をしている。半年に一度カンファレンスを開催。	担当職員の気付きや全体会議での話し合いを基に、本人・家族・医師の意見を取り入れて介護計画を作成している。半年毎の見直し時には担当者会議を開催している。毎月行うモニタリングや利用者の状態変化からも計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回モニタリング、半年に1回評価を実施。GH会議にてカンファレンスを行い、職員全員で見直し変更を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の時など車椅子が必要な利用者の家族等には、希望があれば病院までの送迎を行っている。また、併設施設の運転手の応援を受けることもある。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、マジックショーや歌謡ショーなどのお楽しみ会を開催。利用者に楽しんでいただけるような機会を設けている。また地域で季節の行事があるときは参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先は本人及び家族の希望を尊重しており「かかりつけ医」の連携の下、体調管理や体調不良時など、24時間体制で対応可能。重症時には地元総合病院への紹介、連絡の協力もあり。	入居前のかかりつけ医を家族の付き添いで受診する利用者もいる。協力医以外への受診には、利用者の状態を口頭や受診シートで伝え、家族より結果報告を受けて介護記録に残している。医師から情報提供書でもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH担当の看護師が週1回、バイタル測定に来て体調を把握している。また随時、情報や気づきを随時報告し、指示を仰いでいる。また夜間は看護師との連携により、急変時に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に、職員が週1回程度面会に行き、家族や病院関係者から状態を聞いて情報交換を行いながら、利用者や家族の相談などに対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間、365日の連携体制を確立。また併設する特養看護師にも24時間連絡を取る体制にある。家族には、夜間付き添いなど協力を依頼し、協力医・看護師・家族・職員と連携しながら終末期ケアを整えている。	契約時に重度化や看取りに関する指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じ医師の説明を受け、話し合っって意思の再確認をしている。終末期になれば指針に従って看取り介護計画のカンファレンスを開き職員・家族・医師と方針を共有して取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAED操作・心肺蘇生訓練の定期開催を実施。GH単独でも応急普及員に説明を受け、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震など様々な条件を設定しながら、特養と合同で年2回、GH単独でも年2回避難訓練を実施している。	事業所単独の夜間想定を含む避難訓練の他に併設施設とも合同で行っている。運営推進会議で訓練の結果を検討し、地域住民の協力を呼び掛けている。備蓄品の期限と量の管理もしている。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や話しかける際は、同じ目線にするよう配慮している。トイレや入浴時など、その人の気持ちを優先させ、気分を損ねないよう声をかけている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを確保するために、相手と目線を合わせて会話し、大声で話して内容を漏洩しないなど周りに配慮した対応を心がけている。習慣を大切にし、居室の鍵かけを希望する人には鍵を用意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ひとり一人に担当職員が決まっているため、本人の思いを聞き取り、他職員にも共有し話し合いを持っている。利用者の希望をなるべく尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で静養されたり、リビングでテレビや新聞を見たり、皆で調理をしたり、歌を歌ったりと本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	委託先理美容業者による訪問日を伝え、利用日を選んでいただき、カット、毛染め、顔そり等利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常において、調理の準備や後片付けなどを職員と共にやっている。また毎月食べたいもの等利用者に聞き、献立に組み入れたり誕生日には誕生者の希望メニューにしている。	買い物や下ごしらえ・味付け・後片付け等、利用者毎の役割があり一緒に行っている。食べたい物を献立に取り入れ、季節の物やいろいろのある物をそえて食事を楽しめるよう工夫しているが、楽しく食事をする雰囲気かなかった。	職員間で話し合って、準備や後片付けをする時のように、食事時間も一緒に過ごして、楽しく食事をする雰囲気作りを工夫されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、夜間においても意識した水分補給を行っている。また、毎月併設特養の管理栄養士に献立表を見てもらい、アドバイス等もらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・晩の口腔ケアを職員見守りのもと実施している。義歯の方は週1回(月曜日)に義歯洗浄につけて清潔を心がけている。年1回歯科医による歯科検診も実施している。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のない方、訴えない方に対しても定時のトイレ誘導、落ち着かれない行動を察知して誘導を行う等、気持ちの良い排泄支援を目指している。紙パンツから自己下着へと向上された方もいる。	排泄パターンに合わせて声かけしたり、様子や行動から誘導したり、転倒リスクのある人には排泄介助をしたりしている。夜間にオムツを希望する利用者もいるが、出来る限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫(繊維質を多く摂るなど)、水分摂取量の基準(一日1200ml)を目安に提供している。また、室内運動・外や併設施設までの散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応設定しているが、その日の気分や体調で変更や交代もある。また、突発的なことに関してはこの限りではない。夏場などは、皮膚の状態に合わせて入浴の回数を増やしたりもする。	入浴日は決まっているが、希望に合わせて時間や曜日、回数の変更も出来る。足湯、シャワー浴にも対応している。併設施設の一般浴を貸し切って全員で出かけ温泉気分を味わったり、季節湯や入浴剤を使ったりして入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠のため日中の活性化を支援、家事やアクティビティへの参加を促しているが、体調等配慮したり本人希望される場合など自室にて休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬している。新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している。(一部利用者)職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には定期的な外出支援を行い、畑での野菜作りや花植えも職員と一緒にしている。また、利用者同士の交流が深めるような場を作り出す工夫もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設で行われるイベントや定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。また、年1回ご家族や民生委員・苦情相談員の方々と日帰り旅行に出かけている。	買い物の日、喫茶や外食の日を曜日で決めて希望にそって外出している。併設施設のレクリエーションへの参加や知人の面会等にも出かけている。家族・民生委員・相談員の協力を得て毎年日帰り旅行に行く支援もしている。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者が自分の小遣いを管理されており、施設内での販売や外出の際の支払いなど自己にて行っている。また、買いたい物がある時は、職員に希望を伝えその店に出向く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話してもらったり、「家に帰りたい」など不安の訴えある時は、ご家族に電話を声を聞いて安心してもらえるよう配慮している。個人で携帯電話を持ち、家族や友人と連絡をとっている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりを身体で感じ暮らすことができる。朝は鳥の声で目が覚め、風がふいたり雨が降ったりと利用者の五感に刺激を与えてくれるリビングからの眺めは楽しみな一つである。	リビングや玄関先には季節の生け花や切り絵を飾って季節感を採り入れ、廊下には行事の写真を飾り話題作りをしている。共有空間の明るさや清潔感等のアンケートを家族や訪問者に行って居心地良く過ごせるよう工夫している。ソファの配置も利用者の好みに合わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にはソファや椅子が点在しており、自分の好きな時に気の合う仲間と自由に過ごして頂いている。ひとりになりたい時は部屋で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用されていた愛用の身の周りの品を持参していただいている。ご本人が落ち着ける空間を心がけている。	家族写真や馴染みの物、使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、担当職員と家族が協力して居心地の良い空間となるよう配置を工夫している。ベッドの高さも利用者の希望に合わせて調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分からなくなる方のために、部屋の入り口に表札を付けたり、トイレには「トイレ」と大きな文字で表記している。		